

# ④地域共創シンポジウム

## 報告書



# 目次

1. シンポジウム概要	P. 3
2. 広報・宣伝	P. 4
3. 実施内容	P. 7
4. アーカイブ	P. 14

# 1. シンポジウム概要

## 企画書内容

### 1. 開催主旨

ささしまライブを中心とした、共創と地域一体型の魅力発信をテーマに、広い活動分野の者同士が交流、ディスカッションすることで、交通まちづくり人材育成を進める。

### 2. 内容

- ①リレートーク・・・地域間交通を実践している事業者・団体によるリレー 5名程度
- ②ミニ講演×2名・・・先進地事例（拠点間自動運転、新交通等）
- ③ディスカッション・・・ささしまライブ地区へのにぎわい創出のためのクロストーク

### 3. 登壇者候補

<キーワード>

大学、ラストワンマイル交通、まちづくりビジョン、まちづくりコンテンツ、水辺空間

### 4. 日程

2025年2月15土曜日 14時～17時

### 5. 会場

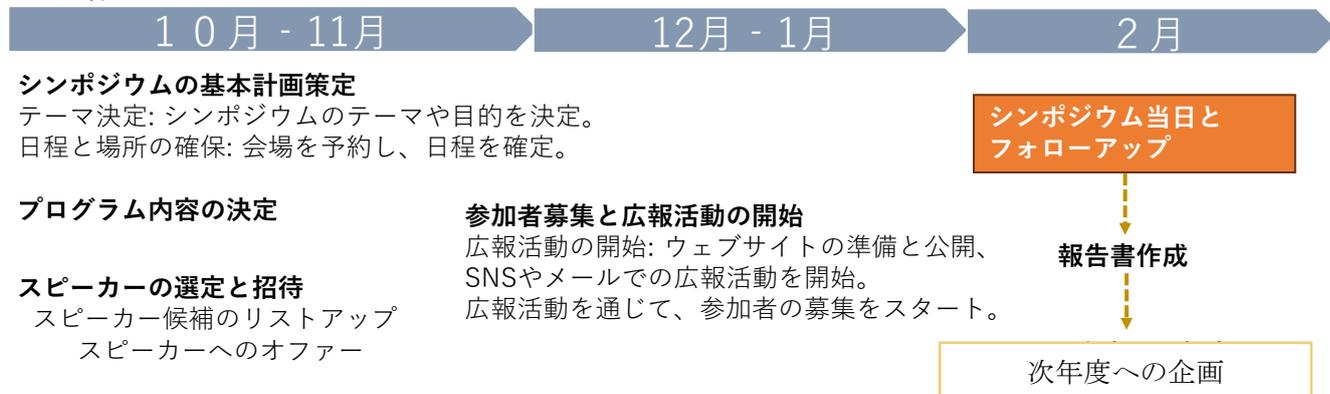
中京テレビプラザC

### 6. 後援名義

名古屋市を中心に経済団体まで幅広く呼び掛けた。

名古屋市、愛知県、名古屋商工会議所、国土交通省中部運輸局、中部経済同友会  
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）、その他企業

### 7. 全体スケジュール



## 2. 広報・宣伝

### プレスリリース

#### 地域共創シンポジウム開催のお知らせ

**名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携**

ささしまライブ地区の真価を発揮するためには、名古屋駅や中川運河エリア、名古屋都心とのさらなる連携が欠かせません。名古屋駅からささしまライブ、さらには中川運河・港エリアまでを繋ぐ魅力的な交通ネットワークと、ささしまライブ地区の活性化を目指した新しいまちづくりのビジョンを共に描き出すシンポジウムを開催します。

このシンポジウムでは、専門家や関係団体、地元の皆さまが一堂に会し、交通体系の革新や商業・観光ルートの可能性を議論します。さらに、地域の価値を高め、未来へと繋げるための具体的なアクションプランを提案します。

ささしまライブ地区を「人が集い、楽しみ、未来を語る場所」へと進化させるこの場面に、是非ご参加くださいませ

※ささしまライブ キャナルパークささしま(1号公園)でマルシェ等の「ささしま冬あそびパーク」も同日開催

#### 【開催概要】

- 日時:2025年2月15日(土曜日)13時(12時30分開場)～16時30分
- 場所:中京テレビプラザC
- 対象:地域住民、企業、大学、まちづくり関係者、専門家、行政担当者など
- 参加費:無料

#### 【プログラム】

1. 開会挨拶・オープニングトーク
2. リレートーク
3. 基調講演:「共創の力がまちを変える、新しい価値を生み出す方法」
4. パネルディスカッション



# SNS (Facebook/Instagram) 内容

## 一部抜粋

**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携

まちづくりから7年が経過したささしまライブ地区、その発展を促すためには、名古屋駅～中川運河エリア、名古屋駅中心のさらなる連携が欠かせません。名古屋駅からささしまライブ、さらには中川運河、東エリアまでを繋ぐ魅力的な交通ネットワークと、ささしまライブ地区の活性化を目的とした新しいまちづくりのビジョンを共に描き出すシンポジウムを開催します。

ささしまライブ地区を「人が集い、楽しみ、未来を語る場所」へと進化させるこの場面に、是非ご参加くださいませ

<シンポジウムページ>  
<https://kyoso-nagoya.jp/symposium2025-main/>  
<申し込みフォーム>  
<https://kyoso-nagoya.jp/symposium2025/>

#共創名古屋  
#ささしまライブまちづくり協議会  
#シンポジウム  
#symposium  
#中川運河キャナルアート  
#アルカダッシュ株式会社



**第2回 地域共創シンポジウム**  
2月15日(土) 12:30 (開場12:00) びらさC

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携



**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

中京テレビプラザにて/  
**2月15日(土)開催**

第2回 地域共創シンポジウム

名古屋駅 ささしまライブ 中川運河

オンライン参加可能!



**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

2月13日

名古屋の未来について議論を繰り広げました



**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

2月10日

2025 地域共創シンポジウム

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携

入場無料! 名古屋の未来を思い来ませんか?  
第2回地域共創シンポジウム

開催日: 2025年2月15日(土)  
時間: 13:00~17:00 (開場 12:30)  
会場: 中京テレビプラザC  
オンライン参加も可能!

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携



**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

2月10日

豪華ゲストが語ります!!



**地域共創シンポジウム**

**登壇者紹介 #2**

株式会社日本総合研究所  
主任研究員  
株式会社日本政策投資銀行  
地域開発部 特任副部長 (専任)  
特定非営利活動法人Comp  
地域経営支援ネットワーク 理事 兼 代表理事

**藻谷 浩介**

基調講演



**地域共創シンポジウム**

**登壇者紹介 #1**

名古屋学院大学名誉教授  
一級建築士

**井澤 知旦**

コーディネーター



**ささしまライブで  
お会いしましょう**

2月15日(土) 12:30 (開場12:00) びらさC

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携



**中川運河キャナルアート**  
フォロー中

2月13日

新たな街づくりの可能性を考える



# 3. 実施内容

## 概要

地域共創シンポジウム

名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決をテーマに、観光・交通を活性化させるための人材育成と地域連携  
(国土交通省 共創・MaaS 実証プロジェクト)

日時：2025年2月15日 13:30～17:00

場所：中京テレビプラザ C

内容：オープニング

リレートーク（各プレイヤーからの発表）

- ささしまライブまちづくり協議会 藤塚勝也氏
- フォーセット名古屋 小澤克志
- 愛知県立中川商業高等学校 坂東裕貴先生と生徒
- 愛知県経済産業局 上原悦子氏
- 名古屋市住宅都市局 福田淳氏

基調講演：日本総合研究所 藻谷浩介氏

パネルディスカッション

- 日建設計総合研究所 安藤晃氏
- 愛知大学 太田光司氏
- 名鉄観光サービス 岩切道雄氏

記念撮影

会場では中川運河での SUP 体験の中継も行われ、隣接する公園では冬遊びパークも開催されている。

---

### 1. リレートーク

#### ① 藤塚克也氏（ささしまライブまちづくり協議会） ささしまライブの現状と課題

背景：

- 2004年に土地所有者により設立
- 2017年10月まちびらき
- 2020年に一般社団法人化

主な課題：

1. 認知度の低さ
  - エリア全体の知名度不足
2. アクセスの問題
  - イベント来場者数の伸び悩み
  - 名古屋駅から徒歩圏内だが、アクセス手段の認知不足

- 場所がわかりにくいという声が多い
- 3. シャトルバスの利用率低下
  - ウェルカムバスの利用者数伸び悩み
  - 学生の利用が少なく、平日はオフィスワーカー中心
- 4. 地区全体を俯瞰した開発計画の欠如
  - 開発の担当区域が分かれているため開発の一貫性がない

提案内容：

1. ビッグデータを活用した人流分析の実施
  - 訪問目的や時間帯の傾向分析
  - 来訪者の特徴把握
2. 新規コンテンツの開発
  - ささしま RPG コンテンツの企画
  - エリア全体を活用した体験型コンテンツ
3. 冬季イベントの実施
  - 雪遊び広場の設置
  - 温かい食べ物の提供スペース確保
4. 将来展望
  - 名古屋観光のハブとしての機能強化
  - 水上交通の拠点としての発展
  - 周辺地域との連携強化

② 小澤勝志氏（フォーセット名古屋）  
中川運河の活性化と地域連携

背景：

- 2023年12月に設立
- 中川運河に強い思い入れを持つ4名で発足

主な取り組み：

1. ドリルマルシェの開催（来場者 3800 人）
  - 来場者 3800 人達成
  - 50 団体の参加
  - 27 店舗の出店
  - ドローンショーの実施
2. 防災啓発活動との連携
  - マルシェと防災啓発の融合
  - 防災ワークショップの実施
  - 簡易トイレの無料配布
3. Palet.Nu(パレットニュー)での市民交流促進
  - 市民交流の場としての機能
  - 400 回以上のイベント開催
  - 100 以上の団体・個人の利用

具体的成果：

- 若手スタッフ 30 名の参加
- 地域住民との交流促進

- 水辺空間の効果的活用
- 中川運河再生ファンドの活用（約 6 億円）

③ 坂野広岳先生と生徒（愛知県立中川青和高等学校）  
高校生による地域活性化の取り組み

背景：

- 2023 年に中川商業から中川青和高等学校へ校名変更
- 愛知県初の全日制単位制商業高校

主な活動：

1. クルーズ船ガイド活動
  - 年 2 回の実施
  - 生徒による地域の歴史や生物の解説
2. データ分析活動
  - 乗降客数データ分析
  - クルーズ名古屋とトリトンラインの乗降客数分析
  - SWOT 分析の実施
3. 港特別支援学校との共同研究
  - 交通インフラの整備に関する研究
  - バリアフリー観点からの提案

提案内容：

- 交通インフラの整備
- あおなみ線の機能強化と駅の移設
- 空港アクセス線化の検討
- セントレア空港との連携強化

④ 上原悦子氏（愛知県）  
名古屋駅と stationAI を結ぶ自動運転車

- 名古屋市内で自動運転シャトルを実証実験として運行中
- 下広井町コースを平日 5 便運行、名古屋駅-鶴舞のステーション AI 間を走行
- レベル 2 の段階で、セーフティドライバーが緊急時に介入できる状態で走行
- 将来的には完全無人化（レベル 4）を目指す
- 無料で予約制にて利用可能
- 自動車産業が盛んな愛知県として新しいモビリティ技術への対応を推進
- 若宮大通りなど工事の多い道路環境下でも走行実績を重ねている
- カメラやレーダー、ライダーなどのセンサーで自律走行

⑤ 福田篤史氏（名古屋市）  
新たな路面公共交通システム SRT

- 名古屋駅-栄間の東西ルートを来年度後半から運行予定
- 名古屋城方面への路線も将来的に検討
- 連節バスを導入し、街の賑わい創出と回遊性向上を目指す
- トータルデザインを重視し、建物を引き立てる外観デザインを採用
- 停留所も快適な待合空間として整備

- 信用乗車方式を採用し、3つの扉からの乗降を可能に
- デジタルコンテンツと連動した車内演出を検討
- クレジットカード決済対応も予定
- 公共交通の質向上と新しい移動価値の提供を目指す
- 官民連携による地上交通の行動変容を促進

⑥ 井村美里氏（水辺とまちの入口 ACT 株式会社）

- 中川運河の水上からライブ中継を実施
- 堀止地区からパレットニューまでの水域を主な活動範囲として利用
- 水上から中京テレビや名古屋駅の高層ビル群を眺望可能
- 水辺の活用について、陸と水面の行き来がしやすい環境整備の必要性を指摘
- 運河沿いの建物の多くが水面に背を向けている現状を指摘
- 最近できたレストランなどは運河を意識した設計に変化
- 水辺空間の魅力向上には更なる工夫が必要
- SUP などの水上アクティビティを通じた運河の新しい活用法を提案

## 2. 基調講演

藻谷浩介氏による基調講演の概要：

テーマ「共創の力がまちを変える、新しい価値を生み出す方法」

目的：

1. 名古屋の都市としての実力と可能性の再認識
2. 歩行者目線での街づくりの重要性の提示
3. インバウンド観光における機会の提示

主要な論点：

- 名古屋の都市規模の再認識（欧米の主要都市と同規模）

名古屋はロンドンやパリ、シカゴと同規模の都市規模を持ちながら、その潜在力を十分に活かしきれていない。

- 歩行者空間の重要性

名古屋駅からささしま、そして中川運河へと繋がる回遊性の創出が重要課題。歩行者目線ではささしまへの案内がわかりにくい。

- 公共空間の活用方法

- インバウンド観光の可能性

韓国からは7人に1人、台湾からは5-6人に1人が訪日している現状を踏まえ、より積極的な観光戦略の必要性がある。

- 行政の縦割り構造の改革や、地域間連携の強化、歩行者目線での街づくりの重要性

ささしま地区では大学や企業、行政が連携し、若い世代の意見を取り入れながら、新しい価値を創造していく必要がある。

事例紹介：

- 開発事例

汐留や品川レールシティ、うめきたなどの開発事例が紹介され、特にうめきたでは地域性

を活かしながら東京的な洗練されたデザインを取り入れることで成功を収めている。

- 富山環水公園の事例

水辺空間を活用した都市再生の可能性

- 久屋大通公園の再生事例

都会の中にオアシスを感じ、空間利用として成功している。

提言：

1. 歩行者目線での街づくり
2. 公共空間の積極的活用
3. インバウンド観光への対応強化
4. 地域間連携の促進

## 1. パネルディスカッション

岩切道郎氏（名鉄観光サービス）

テーマ：観光活性化

観光活性化の視点から、小樽と犬山の比較を例に挙げ、名古屋の観光ポテンシャルについて論じた。小樽の成功は札幌という大都市の存在が重要であり、同様に名古屋も周辺地域との連携が不可欠であると指摘。具体的には、名古屋駅を中心とした90分圏内を「名古屋観光圏」として捉え、広域での観光戦略を展開すべきと提案した。また、名古屋のイメージ向上のために「おしゃれ」と「水辺」という二つのキーワードを提示し、特に中川運河の活用可能性について言及した。

太田幸治氏（愛知大学）

テーマ：大学による地域連携

大学による地域連携の新しい形として「ASITASIA（アシタシア）」という取り組みを紹介。これは造語であり、「明日の国を作る」という意味を込めた活動である。具体的には、内田樹氏や斎藤幸平氏など著名な知識人を招いての講演会や、学生参加型の地域学習プログラム「名古屋ぶらり学」の展開について説明。特に、従来の産学官連携とは異なる、リベラルアーツ的な要素を含んだ新しい地域連携教育の可能性を提示した。

安藤章氏（日建設計総合研究所）

モビリティと街づくり

交通の専門家として、モビリティと街づくりの観点から発表。「モビリティハブ」の概念を提示し、欧米での実践例を紹介。また、池袋での「グリーンスローモビリティ」や横浜での「あおば号」など、具体的な事例を挙げながら、地域に根ざした新しい交通システムの可能性を提示した。

### 【議論の展開と主要な論点】

1. 観光振興とブランド力向上：

岩切氏の提起した「おしゃれ」「水辺」というキーワードを巡って、名古屋の都市イメー

ジ向上について議論を展開。札幌との比較における名古屋の課題として、ホスピタリティの不足が指摘された。

2. 大学の役割と人材育成：

太田氏の提起した大学の役割について、「地域 balanser」「地域モチベーター」「地域クリエイター」という三つの機能が議論され、特に若者の参画促進における大学の重要性が確認された。

3. 交通システムの革新：

安藤氏の提案したモビリティハブ構想を巡って、既存の交通システムとの連携や、地域特性に応じた展開方法について具体的な議論が行われた。

**【井澤氏（コーディネーター）によるまとめと結論】**

1. ささしまエリアの特殊性：

12.4ヘクタールという限られた空間に多様な機能が集積している特徴を活かし、新しい都市モデルとしての可能性を追求すべき。

2. 連携の重要性：

名古屋駅、中川運河、名古屋港との連携を強化し、外部からの刺激を取り入れながら、同時に外部への波及効果も期待できる重要な位置づけである。

3. 今後の展望：

「ストックシェアリング」という新しい概念を導入し、ささしまに蓄積された様々な価値を共有・活用していくことの重要性を確認。

## 参加人数

応募者数 150名

当日

会場参加 110名

オンライン参加 120名

## 当日の様子



## 4. アーカイブ

アーカイブは Youtube に保存されており、視聴可能。

<https://www.youtube.com/watch?v=Jg9M2bwXhVA>